

〔 病 虫 害 〕

イ紋枯病菌の雑草に対する寄生性について

鬼木 正 臣
(福岡県立農業試験場筑後分場)

ONIKI, M.

On the Pathogenicity of *Rhizoctonia solani* KÜHN isolated from Stem Rot of Rush Plants to Weeds.

雑草の繁茂がイ紋枯病の発病を容易ならしめることは、間接的に初期発病の気象的条件をよくすることは別、雑草がイ紋枯病菌に犯され、それから直接的にイ茎へ感染することも考えられる。そこで著者は、イ栽培上問題となる雑草に対する本病菌の寄生性について実験を試みた。その結果の概要をここに報告する。

材料および方法

供試植物：第1表にあげる13科22種の植物を用いた。

供試菌：イ茎より1966年に分離された菌番号C-67, C-68で*Rhizoctonia solani*の培養型ⅢB型(渡辺氏法)

ほ場における自然発病調査：本病菌による自然発病と思われる罹病植物を採集し、ローズベンガル・ストマイ加用PSA培地又はアグリマイシン加用PSA培地で菌の分離を行なった。分離された*Rhizoctonia solani*はさらにPSA培地で培養型を調査した。

接種による発病調査：磁製ポットに植付けた無病の雑草の各部位(茎・葉)にあらかじめPSA培地で培養した供試菌々そうを切りとり接種し、発病を調査した。発病したものはさらに病斑部からイ紋枯病菌の検出を行なった。

結 果

結果は第1表のとおりである。ほ場における自然発病のオオアブノメ、コナギ、アゼガヤツリ、タマガヤツリ、ミズガヤツリ、マツバイ、タイヌビエよりイ紋枯病菌が分離された。これらのうちオオアブノメ、アゼガヤツリはごく少数例であったが、他のものは数多くみられた。

接種による発病はアゼナ、キカシグサ、タデの一種については検討できなかったが、カヤツリグサ科、イネ科の雑草はイネ紋枯様病斑～葉ぐされ、他の雑草は茎に湿潤状褐色病斑～立枯、葉に褐色～黒色葉ぐされの病徴が認められた。

第1表 イ紋枯病菌の雑草に対する寄生性

雑 草 名	自然発病		接種による発病		雑 草 名	自然発病		接種による発病	
	茎	葉	茎	葉		茎	葉	茎	葉
タカサブロウ	—	—	—	+	タデの一種	—	—		
アゼムシロ	—	—	—	+	コナギ	+	+	+	+
アゼナ	—	—			イボクサ	—	—	+	—
アゼトウガラシ	—	—	+	+	アゼガヤツリ	+	+	+	+
オオアブノメ	+	—	+	+	タマガヤツリ	+	+	+	+
チョウジタデ	—	—	—	+	ミズガヤツリ	+	+	+	+
キカシグサ	—	—			ハマスゲ	—	—	+	+
ミズハコベ	—	—	+	—	コウキヤガラ	—	—	—	+
タネツケバナ	—	—	+	—	マツバイ	—	+	—	+
タガラシ	—	—	+	+	タイヌビエ	+	+	+	+
ミチヤナギ	—	—	—	+	スズメノテッポウ	—	—	+	+

(備考) +は発病の認められたもの、—は発病の認められなかったものを示す。